


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	




（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。観光は、旅行需要喚起策の効果などから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
観光	緩やかに持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を下回っている	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移していることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗で好調なことなどから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年を下回っている。家電販売額は、前年を下回っている。このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- インバウンド再開により、徐々に免税売上高が増えてきていることは明るい材料。(百貨店・スーパー)
- 総菜は価格が上昇しているが、外食よりはお得感があることから、売れ行きが良いなど、食料品は引き続き堅調。衣料品では、11月は気温が高く、秋・冬物衣料が伸びなかったが12月は気温が下がり、反動で伸びた。クリスマス、年末年始は人流回復が見られ、お得感のある正月用福袋の消化率が例年より良く、好調だった。(百貨店・スーパー)
- 全国旅行支援開始による観光客数増の影響で、観光地周辺店舗の売り上げは引き続き好調。各種値上げによる単価上昇はあるものの、今のところ、お客様の消費動向に大きな変化はみられない。(コンビニエンスストア)
- 総合感冒薬、解熱鎮痛剤などが好調に推移。マスクもファッション性を重視したものがトレンド。11月以降、国際便の再開により、免税売上が計上されはじめており、インバウンドの戻りに期待感がある。(ドラッグストア)
- 半導体不足の影響が薄まっており、納車時期が安定してきていることから、販売台数は回復基調。車両価格は値上がりしているが、機能の充実も伴っており、お客様の自動車購入意欲が冷え込んでいる印象はない。(自動車販売店)
- 中古車不足は継続しているものの、徐々に緩和してきており、仕入れ値の上昇が落ち着いてきた。(中古自動車販売店)
- コロナ禍も3年目となり、過去2年は各種給付金や巣ごもり需要で家電買い替えなどの動きで好調に推移したが、昨年までは違い、外出も旺盛になるなど家電への支出額は減っている可能性がある。(家電量販店)

■ 観光 「持ち直している」

入域観光客数は、国内客は、旅行需要喚起策の効果などから、増加している。外国客は、再開された国際線の拡大から、増加している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、持ち直している。

- 全国旅行支援の効果が大きく、前期のハイシーズンに比べても、好調。11～12月の売上げはコロナ前の水準にまで回復している。コロナ第8波の影響は、感染者数増加の報道はあるが、影響はそれほど感じない。感染者数の動向に左右されていた今までは違ったフェーズに来ている。(他運輸)
- 前期の夏場も好調であったが、今期は更に好調で、景況感は上向き。例年、高値の年末年始の単価は変わらないが、その他の時期の単価が上がっていることで、売上は上昇している。(レンタカー)
- 貸切バスは、例年、10月中旬～12月中旬が修学旅行の繁忙期。全国旅行支援の後押しがあったため、修学旅行のキャンセルは数校程度で済んだと思っている。昨年も行動制限がなかったが、昨年に比べても、今年はかなり回復している。(陸運)
- 10月以降、全国旅行支援の効果もあり、前期7～9月期と比べて、稼働が上がっている。当ホテルは元々ビジネス客中心であるが、全国旅行支援の影響が観光客の方が増加している。インバウンドも、10月以降、少しずつ増えてきている。(宿泊)
- 全国旅行支援の影響は大きく、ADR(客室単価)はしっかり上がっている。地域クーポンについても、ホテルで発行した分の5割は、ホテル内のレストランや売店で使用されている。(宿泊)
- コロナ禍で来られなかった反動か、観光客の購買意欲も高く、体験等でお金を使う人が増えている。(娯楽)
- 前期夏場は個人客を中心に好調であったが、今期は、団体客が増えており、大型バスも多く動いている。(旅行)
- 先行きについて、1月は例年閑散期であるが、今年は全国旅行支援があるため、旅行需要の底上げとなる見通し。1月下旬は、台湾の春節があり、インバウンドの期待あり。円安は追い風になっている。直行便の影響は大きいいため、沖縄発一海外についても、便が増えれば、為替の影響は関係なく、需要が回復するとみている。(旅行)

■ **雇用情勢** 「持ち直している」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、その他サービス業、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を下回っている。このように雇用情勢は、持ち直している。

- 11月の有効求人倍率（季節調整値）は1.10倍で、2ヶ月連続の46位（前月から0.01ポイント上昇）。また、新規求人倍率（季節調整値）は2.14倍で、前月より0.16ポイント上昇と大きな上昇幅となっている。正社員の有効求人倍率（原数値）も、0.71倍（前月から0.18ポイント上昇）となり、過去最高だったコロナ前の2019年10～12月の0.72倍に肉薄する高水準となっている。（公的機関）
- 求人数だけでなく、広告収入もコロナ前の約9割まで戻ってきている。前期7～9月期は、大手の企業からの求人が多かったが、最近は企業規模・業種に関わらず、全体的に求人は増加している。（求人誌出版）
- 観光需要の回復により、特に離島、北部地域などでは、コロナ前の観光の旺盛だった時期（2019年）に近いほど、採用環境は厳しくなっており、人手不足感が生じている。（小売）
- 人手不足は変わらず時給を上げ募集するも、全く応募がない。いる人員で対応できる稼働に押さえている。（レンタカー）
- 人材不足の状況に変わりなく、単に賃金を上げるだけでは採用は難しい。福利厚生充実が必要。（建設・宿泊）
- 11月に物価高も考慮して、予定よりも高く賃上げを行った。（建設）
- 賃金についてはベースアップではないが、今年1月から一律5千円の手当の支給を開始。（旅行）

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 製造業では、前年度を25.7%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸で減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険などで増加することから、全体では前年度を32.4%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 製造業では、95.4%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売などで減益となるものの、運輸・郵便で黒字転化となることなどから、全体では56.2%の増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「現状判断は、「上昇」超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」4年10～12月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度12月累計）は、前年を下回っている。

■ **生産活動** 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 食料品及び窯業・土石等で上昇しているものの、金属製品が低下していることなどから、生産活動は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。